

空間構成

① 団地住民の暮らしを支える生活拠点の配置

都市の骨格軸となる北側の地区幹線道路沿いではなく、比較的交通量が少ない南側の街区幹線道路側に団地住民の生活拠点となるバス停や便益施設等が配置されており、都市の喧騒を離れた落ち着いた環境が保たれている。



② 歩道状に連なるオープンスペース

本計画団地は、歩道と広場を重層的に配置した「ペDESTリアンウェイ(歩道状広場)」を採用した、初期のUR団地(旧日本住宅公団)である。北側の地区幹線道路には、車両出入口とは別に2箇所歩行者専用口が設けられており、住棟の妻面の間に広場状の歩行者空間が連続して配置されている。このような配置は、周辺に見られる短冊状の敷地割による景観とも調和している。



③ 明快な動線配置

団地を南北に縦貫する5つの動線は、車両用と歩行者用が交互に配置されることで歩車分離が図られている。これにより、この団地の特徴である連続した歩道状広場が確保されている。



④ 団地の緑が映える視軸構成

規則的に南面平行に配置された住棟構成により、住棟間のスキの先に配置された歩道状空地の緑が、効果的なアイストップとしての役割を果たしている。



空間構成

中央公園 + 新たな3つの広場による団地内オープンスペースネットワークの強化

- 住棟に面した3つの特徴的な広場（縁側の広場、芝生の広場、疎林の広場）を整備し、多様な用途に対応したオープンスペースの充実を図る。
- 新たに設けた広場と既存の広場を有機的に結びつけ、団地内の特徴である歩道状広場の形態を活かしながら、オープンスペースのネットワークを強化する。

これらの広場は、団地全体における位置や周辺環境との関係性に応じて性格を整理し、パブリック性の段階構成を明確化している。

広場の性格付け
<パブリック性の段階構成>

